CD－1取扱説明書

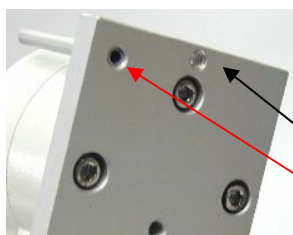
このたびはCD－1をお買い上げ頂きまして誠に有難うございます。CD－1は誰でも手軽に星野写真が撮影できる自動追尾式星野写真儀です。ご使用にあたっては下記の取扱い方法及び注意事項をご参考になさって下さい。（なお広角～標準レンズでの撮影用ですので長焦点や望遠レンズでの長時間の追尾撮影には適しません。）

1、三脚への取付

CD－1を三脚にしっかりと取り付けます。写真のように三脚のパン棒は下にくるように取り付けると極軸調整がしやすくなります。なお三脚への取り付けは縦方向でも横方向でも構いません。極軸調整のしやすさに合わせてご選択下さい。
（搭載される三脚及び自由雲台はできるだけ丈夫なものをお選び下さい）

※自由雲台は緩まないようしっかりとお取り付け下さい。

2、極軸の調整

カメラを極軸調整筒の邪魔にならない方向へ向け、極軸調整筒を覗いて北極星が視野の中心付近に入るよう調整します。国内ではほぼ右の写真のような姿勢となります。

極軸調整筒の視野は約4度となります。視野の中心付近へ北極星を導入して三脚を固定します。（オプションの極軸望遠鏡をご使用でない場合は極軸望遠鏡取り付け穴で最初に北極星を導入しておくと容易です）

極軸望遠鏡取り付け穴
極軸調整筒

電池BOXケースはカラー･形状が異なる場合がございます。

3、撮影の要領

電池BOXのケーブルをコントローラーに、コントローラーのケーブルをCD－１本体のモーターに接続します。コントローラの電源をONにして追尾を開始します。追尾を開始したら自由雲台でカメラの構図を決め撮影を開始します。構図を決める際にCD－1が動かないように慎重に行って下さい。デジタルカメラをお使いの場合はテスト撮影を行います。適当な方向へ向け3分ほど露出をして撮影し星像に流れがないか確認します。もし流れているようであれば、北極星が極軸調整筒からずれている可能性がありますので再調整を行って下さい。また電源が入っているかどうか確認して下さい。

南北切替はケースの裏側のネジを空けてディップスイッチを切り替えて行います。
（ディップスイッチのONが北半球、1が南半球となります。初期設定は北半球となっています。）

ディップスイッチ

4、追尾精度について

極軸調整筒の視野は約4°となりますので、視野の中心付近へ北極星を導入した場合の極軸の精度はおおよそで1～～2°程度となります。極軸の誤差が1°及び2°の場合で星が点像に写る露出時間の目安は下記の通りとなります。
（※誤差の影響が最も大きい方向での目安となります。）

（APS-Cサイズの撮像面を持つデジタル一眼レフによる撮影の目安）※撮像面でのズレ0．02～0．03mm

レンズ焦点距離	35mmフィルム換算	追尾誤差の許容量	限界露出（誤差1°）	限界露出（誤差2°）
12mm	18～20mm	約3′30″	約24分	約12分
18mm	27～29mm	約2′20″	約16分	約 8分
24mm	36～38mm	約1′50″	約12分	約 6分
28mm	42～45mm	約1′30″	約10分	約 5分
35mm	52～56mm	約1′15″	約 8分	約 4分
50mm	75～80mm	約1′	約 6分	約 3分

※電池が消耗するとコントローラーのパイロットランプが点滅を始めますので、新しい電池とお取替え下さい。

CD－1仕様　星野写真儀（広角～標準レンズ用）、極軸簡易調整筒付
赤経全周駆動、赤経モータードライブ付（パルスモーター、コントローラー付）
重量1．2kg（コントローラー、電池BOX除く）,サイズ110X85X145mm
※三脚及び自由雲台はオプションとなります。できるだけしっかりしたものをご使用下さい。

発売元　テレスコープセンターアイベル
〒514－0801　三重県津市船頭町3412　TEL059－228－4119

※CD－1のモーターはビクセンのMT－1WTを使用しております。モーターの付属品（ギア等）はそのまま付属させていただいておりますが、CD－1には使用いたしません。